

取組名称	人も自然としてある未来へ ～「SATOYAMAオーガニック地域」の創造～			団体設立後の経過年数	23年
応募取組主体名称	健一自然農園	活動地域	福住村を中心とした大和高原一帯	応募取組の活動年数	23年
取組主体の種類	企業 / 学校 / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門 (概ね30代以下の次世代を担う若手を中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください) / その他				
応募取組に関連する実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワーメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとつくり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への想いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXPO2025 いのち動的平衡賞				



取組の要旨
<p>奈良の北東部の大和高原で地域の方々より茶園を受け継ぎ、約30か所11haの茶畑を自然の調和を大切に経営し24年目を迎える。持続可能な農業に加え多面的にSDGsな社会課題にアプローチしている。子どもたちへ五感体験【ESD教育】、オーガニックコスメ【日本のものづくり】、肥料や農薬不使用+バイオマス【カーボンニュートラル】、茶園の生態系【生物多様性】、持続可能なお茶旅【リジェネラティブツーリズム】、茶文化発信【伝統文化を活かした地域おこし】、中山間地域での生きがいつくり【人生100年時代】、SATOYAMA地域における自立分散型里山地域づくりへのサポート【地域循環共生圏】</p>
実績の要旨
<p>健一自然農園は「大和高原」における循環型農業の実践地として活動を続けた結果、奈良県天理市は農水省の「オーガニックビレッジ」の宣言地域としての活動を取り組みはじめ、内閣府の地方創生「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」に採択されるなど環境と社会に対する実績を着実に重ねながらさらなる広がりを見せています。耕作放棄茶園の活用によって①土壌の再生 ②環境の保全 ③地域の活性化と共に日本が大切にしてきたSATOYAMAの復活へと進めています。</p>

取組評価の要旨	環境への貢献	耕作放棄茶畑を再生することで里山の生態系を取り戻し、を中山間地域を中心とした生物多様性のモデルづくりに貢献します。
	社会・経済への貢献	農水省をはじめ、環境省、経産省、国交省、内閣府など各省庁の施策を活かしながら成長し、地域社会、地域創生のモデルになりつつあります。
	地域資源の活用	耕作放棄された茶畑を「三年晩茶」として、森の機能を取り戻すための間伐樹木を「エネルギー」として多方面に活用します。
	普及・汎用性	「オーガニックビレッジの実践」をキーワードに近隣地域と連携し「大和高原」一帯を広域的に活動を広げます。
	革新・ユニーク性	大量生産時代に取り残された放棄茶園を、化学肥料や残留農薬の無いオーガニックな農業地として再生した点と、そこに掛け算して展開されている多面的社会課題へのアプローチです。
	継続性	「お茶」の物品販売ほか「お茶摘み」や「お茶づくり」など生産・製造工程を体験できる「里山ツーリズム」による地域事業を目指します。

展望の要旨	これまでの取組が実を結んではじまった「オーガニックビレッジ」での実績を広げ、大和高原一帯に「SATOYAMAオーガニック地域」を形成することを目指します。
-------	---